

■河上肇 経済学者。大反響の『貧乏物語』以降、マルクス主義の研究普及に努めるが、弾圧され、敗戦直後に餓死。

かわかみはじめ

琉球処分・・・1879＝ 山口県玖珂郡岩国町(現岩国市)生れ。

明治14年政変1881＝ 2歳：

秩父事件・・・1884＝ 5歳：岩国尋常小学校初等科入学。

初の対等条約1888＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝10歳：

帝国議会始・・・1890＝11歳：「日本工業論」を回覧雑誌に発表。

郡司千島探検1893＝14歳：山口高等中学校予科入学。

日清戦争始・・・1894＝15歳：

日清戦争終・・・1895＝16歳：山口県立尋常中学校に転校して卒業。山口高等学校文科入学。

八幡製鉄始・・・1897＝18歳：

子規句歌革新1898＝19歳：法科に転じ卒業。東京帝国大学法科大学政治科入学。

田中正造直訴1901＝22歳：足尾銅毒事件の鉱毒地救済演説会を聞いて即座に着ていた物を寄付し、翌日身につけた物以外残らず救済会に送り届け、「特志の大学生」という見出しで『毎日新聞』に載る。

教科書疑獄・・・1902＝23歳：東大法科大学政治科を卒業し、結婚。

日比谷公園・・・1903＝24歳：東京帝大農科大学実科講師となる。学習院、専修学校、台湾協会専門学校講師を兼任。

日露戦争終・・・1905＝26歳：『社会主義評論』を『読売新聞』に連載するが、擱筆し、一切の教職を辞して伊藤護信の無我苑に入る。

満鉄発足・・・1906＝27歳：『人生の帰郷』を『読売新聞』に連載。無我苑を退去し、読売新聞記者となる。

韓国反日暴動1907＝28歳：読売新聞社を退き、『日本経済新誌』創刊。

アラビヤ創刊・・・1908＝29歳：京大講師に招かれ、京都に移住。

伊藤博文暗殺1909＝30歳：助教となる

初期は、経済的歴史観・限界効用学派の研究や、国民的生産力向上策としての保護貿易論、農工商調和論を唱える一方、利己心と利他心の相克という問題意識から社会主義にも関心を寄せたが、これは「求道の戦士」といわれる彼の生涯の課題となる。

明治天皇没・・・1912＝33歳：

大正政変・・・1913＝34歳：ヨーロッパ留学に出発。

第一次大戦始1914＝35歳：留学中(大阪朝日新聞)に寄稿。第1次世界大戦勃発に際して。法学博士。パリでは島崎藤村と親交。

21ヶ条要求・・・1915＝36歳：帰国し、教授に昇進。

民主主義・・・1916＝37歳：\*『大阪朝日新聞』に『貧乏物語』を連載して、

ロシア革命・・・1917＝38歳：\*公刊し、文名大いにあがる。

ベルサイユ条約・・・1919＝40歳：新設の経済学部勤務となる。\*個人雑誌『社会問題研究』を創刊してマルクス主義の研究と普及に努める。

原敬首相暗殺1921＝42歳：『改造』に『断片』を発表し発禁となる。

関東大震災・・・1923＝44歳：\*さらに『資本主義経済学史的発展』に対する榊田民蔵の批判を機に、マルクス主義哲学に研究を進めるとともに、実践運動とのかかわりも生じ始め、

護憲三派圧勝1924＝45歳：経済学部長に補せられたが病気のため辞し、

日本時代始・・・1926＝47歳：京都学連事件のため自宅捜査を受けて、

共産党事件・・・1928＝49歳：京大を辞職。新党結成大会に出席のため上京、初めて検束をうける。

世界恐慌・・・1929＝50歳：京都五条署に検束される。大山郁夫らと新労農党結成。

海軍軍縮条約1930＝51歳：第2回普選選挙の衆議院議員に京都より立候補して落選。

満州事変・・・1931＝52歳：

五一五事件・・・1932＝53歳：『資本論入門』を最後に、地下運動に入り、以後隠れ家を転々とする。

国際連盟脱退1933＝54歳：\*共産党員として検挙され、刑務所に収容される。

この年までの30年間、経済学者として活躍、誠実な思想的遍歴と希代の文才による旺盛な著述とで、その影響は広く中国にも及ぶ。以後、獄中生活を送るが、思想的節操は守り、

日中戦争始・・・1937＝58歳：刑期満了して杉並の仮寓に帰り、『出獄の手記』発表。

以後、閉戸閑人と称して詩歌、書道、篆刻等に親しみ、

日米開戦・・・1941＝62歳：

・・・1942＝63歳：

創価学会検挙1943＝64歳：『自叙伝』執筆に着手。『陸放翁鑑賞』成る。

敗戦・・・1945＝66歳：

新憲法公布・・・1946＝67歳：新時代の到来を喜びつつ、栄養失調症で没した。